

Symphony

TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA MONTHLY CONCERT BROCHURE

2020
APRIL

No. 114

Sat. 18th April
Tokyo Opera City Series

No. 679

Sat. 25th April
Subscription Concert

No. 75

Sun. 26th April
Kawasaki Subscription Concert

4



Jonathan Nott, *Music Director*



TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA

Jonathan Nott, Music Director

音楽監督	ジョナサン・ノット
桂冠指揮者	秋山和慶
	ユベール・スダーン
特別客演指揮者	飯森範親
名誉客演指揮者	大友直人
永久名誉指揮者	アルヴィド・ヤンソンス ◆
	上田 仁 ◆
	遠山信二 ◆
名誉コンサートマスター	大谷康子

コンサートマスター	グレブ・ニキティン
	水谷 晃
アシスタント・	田尻 順
コンサートマスター	廣岡克隆

会 長	横川 端
理事長	澤田秀雄
副理事長	平澤 創
	依田 巽
専務理事	大野順二
理 事	阿部武彦
	池辺晋一郎
	伊藤美樹
	大橋 博
	岡崎哲也
	庄司 薫
	永山 治
	夏野 剛
	南部靖之
	福川伸次
	藤原 洋
	増岡聡一郎
監 事	磯村文靖
	寺西基之
評議員長	金山茂人
最高顧問	梅沢一彦 鷺海量明
評議員	片山泰輔 加藤英輔
	西村 朗 星 久人
	松木康夫 山添 茂
	横川 竟
特別顧問	飯島延浩
	草壁悟朗◇
	福田紀彦

1st Violins

- 木村正貴
- 堀内幸子
- 小川敦子
- 加藤幸子
- 立岡百合恵
- 土屋杏子
- 中村楓子
- 森岡ゆりあ
- 吉川万理
- 大和田ルース

2nd Violins

- 清水泰明
- 服部亜矢子
- 坂井みどり
- 加藤まな
- 福留史紘
- 阿部真弓
- 河裾あずさ
- 塩谷しずか
- 鈴木浩司
- 竹田詩織
- 渡辺裕子

Violas

- 青木篤子
- 武生直子
- 西村真紀
- 多井千洋
- 山廣みほ
- 小西広興 ●
- 鈴木まり奈
- 井聖乃
- 松崎里絵

Cellos

- 伊藤文嗣
- 川井真由美
- 謝名元 民
- 蟹江慶行
- 樋口泰世
- 福岡茉莉子 *

Double Basses

- 回助川 龍
- 北村一平
- 久松ちず
- 安田修平
- 渡邊淳子
- 笠原勝二

Flutes

- 相澤政宏
- 八木瑛子 *

Flutes & Piccolos

- 高野成之
- 濱崎麻里子

Oboes

- 荒 絵理子
- 荒木奏美
- 篠崎 隆

Oboe & English horn

- 最上峰行

Clarinets

- エマニュエル・ヌヴー
- 吉野亜希菜
- 近藤千花子
- 小林利彰

Bassoons

- 福井 蔵
- 福士まり子
- 坂井由佳
- 前関祐紀

Horns

- 上間善之
- 大野雄太
- ジョナサン・ハミル
- 阪本正彦
- 加藤智浩 *
- 清根伸吾 *

Trumpets

- 佐藤友紀
- 澤田真人
- 野沢岳史 ●
- 松山 萌

Trombones

- 鳥塚心輔
- 大馬直人
- 住川佳祐

Bass Trombone

- 藤井良太

Tuba

- 渡辺 功

Timpani & Percussions

- 清水 太
- 武山芳史
- 綱川淳美
- 新澤義美

Harp

- 景山梨乃

Librarian

- ★武田英昭

Stage Managers

- 山本 聡
- 西岡理佐 *

楽団員

- 井伊 準 ◆

楽団長

- 大野順二

編成局長

- 藤原 真

パネーソル・マネージャー

- 大和田浩明

楽団委員

- 相澤政宏 (議長)
- 大野雄太 (書記)
- 清水泰明
- 清水 太
- 鈴木浩司
- 藤井良太

事務室長

- 辻 敏

事務局

- 伊藤瑛海
- 尾木貴雄
- 梶川純子
- 桐原美砂
- 佐藤雄巳
- 高瀬 緑
- 竹内裕子
- 長久保宏太郎
- 廣中憲士
- 美濃部 敦
- 山田道子
- 小川博司 *

名誉団友

- 深江泰輔 ◆ 三木晴雄

団 友

- 天野裕和
- 新井 汎
- 安藤史子
- 池田 肇
- 石川晴依世
- 今村和弘
- 岩澤淳子
- 上原正二
- 上原規照
- 上原未莉
- 内田彬雄
- 内田乃俐子
- 宇都 実
- 梅田 学
- 大隈雅人
- 大塚正昭
- 野村真澄
- 馬場隆弘
- 小川さえ子
- 荻野 昇
- 奥田昌史
- 昔川健二
- 加藤谷酒美
- 甲藤さち
- 加藤信吾
- 金澤 茂
- 久保田一穂
- 熊谷仁士
- 小林照雄
- 小林亮子
- 佐川聖二
- 佐川裕子
- 佐々木真
- 菅野明彦
- 杉浦直基
- 鈴木一輝
- 芹澤英雄
- 曾根敦子
- 田中真輔
- 千村雅信
- 十亀正司
- 中塚和良
- 中塚博則
- 中山 智
- 西依智子
- 西脇秀治
- 野村真澄
- 馬場隆弘
- 原田美保子
- 日野 奏
- ペアンテ
- ボーマン
- 前田健一郎
- 丸山正昭
- 三浦正信
- 宮原祐子
- 宮本直樹
- 宮本 睦
- 森みこ子
- 諸橋健久
- 渡辺哲郎

演奏会でのお願い

ご来場の皆様に演奏会を
楽しんでいただくためにご協力下さい

Please keep in mind the following rules, protocol and
etiquette so that all of our guests may enjoy today's concert.



チケットに記載された 座席でご鑑賞ください

お手持ちのチケットに記載されて
いる座席番号にのみ有効です。座
席移動はご遠慮ください。また係の者が、チケットを
拝見・確認させていただく場合がございます。

Please be seated at the seat number designated on your
ticket.



補聴器の確認を

補聴器をご使用のお客様は、ハウ
リングの発生を避けるためにきち
んと装着されているか今一度お確
かめください。

For our guests who wear hearing aid devices, please
check that your device is suitably set before the
performance begins.



開演前に携帯電話、 時計のアラーム音、 電子機器等の電源はOFF

マナーモードにしているでも振動す
る音が響きますので、電源は必ず
切るようにしましょう。

Switch OFF your mobile telephones, wristwatch alarms
and all other noise-emitting electronic devices before the
performance begins.



演奏中の 飲食はご遠慮ください

のど飴等の包み紙を開ける音は
思っている以上に場内に響きます
ので、演奏中の開封はご遠慮ください。のど飴は演奏
開始前までに口の中へ入れておきましょう。

Refrain from eating and drinking during the performance.



演奏中はお静かに

手荷物につけている鈴やビニール
袋等、音の出るものは音を立てな
いようにご配慮ください。演奏中
の私語、プログラムやスコア等紙類をめくる音、かば
んのチャック等をいじるのも雑音となりますのでご注
意ください。

Please be silent during the performance.



周囲の視界を遮るような 行為はやめましょう

身を乗り出しての鑑賞や、つばの
広い帽子や高さのある帽子は脱い
でご鑑賞ください。またリズムをとる行為も、隣の人
の迷惑になりますのでおやめください。

Please refrain from wearing hats or rhythmically swaying in
a way which could disturb or obstruct the view of those
seated near you.



開演後の入場を 制限させていただきます

開演後のご入場、曲間・楽章間のご
入場は制限させていただきます。
途中入場がある場合は、係員の指示に従ってください。

You will not be permitted to enter the concert hall during a
performance.



咳、くしゃみをする際は ハンカチで押さえましょう

ハンカチをあてがうことで音量は
かなり軽減されます。

Please use a handkerchief to help suppress the noise from
any coughing or sneezing.



曲の余韻も 演奏のうちです

フライングブラボーやフライング
拍手はお控えください。

The lingering sounds and moments are part of the
performance. Please hold your applause or shouting your
appreciation until the actual end of the performance.



香水は控えめに

Refrain from wearing an excessive amount of perfume.



ホール内での録音・録画・ 写真撮影は禁止です

Photography, filming and recording are prohibited.

4/18 SAT.

東京オペラシティシリーズ 第114回

2020年4月18日(土) 2:00p.m. 東京オペラシティコンサートホール

Tokyo Opera City Series No.114

Sat. 18th April 2020, 2:00p.m. Tokyo Opera City Concert Hall

ジョナサン・ノット [指揮]

辻 彩奈 [ヴァイオリン]

グレブ・ニキティン [コンサートマスター]

Jonathan Nott, Conductor

Ayana Tsuji, Violin

Gleb Nikitin, Concertmaster

ストラヴィンスキー:

バレエ音楽「カルタ遊び」(23')

I.Stravinsky : "Jeu de cartes"

ballet en trois rounds, pour orchestre (23')

酒井健治:

ヴァイオリン協奏曲「G線上で」(18')

K.Sakai : Violin Concerto

"On the G String" (18')

I.ディアローグ

II.レント

III.フィナーレ

I. Dialogue

II. Lento

III. Finale

休憩(20')

Intermission(20')

ベートーヴェン:

交響曲 第2番 二長調 作品36 (35')

L.v.Beethoven :

Symphony No.2 in D major, op.36 (35')

I. アダージョ・モルト - アレグロ・コン・ブリオ

II. ラルゲット

III. スケルツォ:アレグロ

IV. アレグロ・モルト

I. Adagio molto - Allegro con brio

II. Larghetto

III. Scherzo: Allegro

IV. Allegro molto

●主催/公益財団法人東京交響楽団

●助成/文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会

●後援/在日スイス大使館、プリティッシュ・カウンシル

楽曲解説はP.06をご覧ください



4/18 SAT. 25 SAT. 26 SUN.



©K.Miura

Jonathan Nott

Conductor

ジョナサン・ノット

[指揮]

Music Director

音楽監督

イギリス生まれ。フランクフルトとヴァースバーデンの歌劇場で指揮者としてのキャリアをスタートし、ルツェルン交響楽団首席指揮者兼ルツェルン劇場音楽監督、アンサンブル・アンテルコンタンポラン音楽監督、バンベルク交響楽団首席指揮者を経て、2014年度より東京交響楽団第3代音楽監督。2017年からはスイス・ロマンド管弦楽団の音楽監督も務めている。その抜群のプログラミング・センスに加え、古典から現代曲まで幅広いレパートリーを誇り、ベルリン・フィル、ウィーン・フィル、コンサートヘボウ管、シカゴ響等のオーケストラ、ザルツブルク音楽祭、ルツェルン音楽祭、BBCプロムス等の音楽祭へ客演している。ウィーン・フィルやベルリンフィルとの録音のほか、東京交響楽団とはオクタヴィアレコードより6つのCDをリリースしている。2020年3月第32回ミュージック・ペンクラブ音楽賞「オペラ・オーケストラ部門」を東京交響楽団とともに受賞した。

Well known for the power, vigour and clarity of his interpretations of Mahler's works, Jonathan Nott has been music director of the Tokyo Symphony Orchestra since 2014. He was also appointed as Music and Artistic Director of the Orchestre de la Suisse Romande as from 2017 and had been principal conductor of the Bamberg Symphony Orchestra for 16 years. Mr. Nott began his career at the opera houses in Frankfurt and Wiesbaden where he conducted all major works of the repertoire including Wagner's complete Ring cycle. Mr. Nott has a large catalogue of highly acclaimed recordings by the Orchestre de la Suisse Romande, the Bamberg Symphony Orchestra, the Berlin Philharmonic, and the Vienna Philharmonic Orchestra as well as recordings with the Tokyo Symphony Orchestra. In 2020, Mr. Nott and Tokyo Symphony Orchestra won the Best Orchestra of the 32th Music Pen Club Music Award.

4/18 SAT.



©Warner Classics

Ayana Tsuji

Violin

辻 彩奈 [ヴァイオリン]

1997年岐阜県生まれ。2016年、18歳にてモントリオール国際音楽コンクール第1位、併せて5つの特別賞を受賞。11歳にて名古屋フィルハーモニー交響楽団と共演。これまでにモントリオール交響楽団、スイス・ロマンダ管弦楽団、NHK交響楽団、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団などと共演している。また室内楽においては、チェロの堤剛、ピアノの江口玲、伊藤恵、エマニュエル・シュトロッセの各氏らと共演。2018年「第28回出光音楽賞」を受賞。これまでに小林健次、矢口十詩子、中澤さみ子、小栗まぢ絵、原田幸一郎、レジス・パスキエの各氏に師事。使用楽器は、NPO法人イエローエンジェルより貸与されている Joannes Baptista Guadagnini 1748 である。2019年4月、ジョナサン・ノット指揮／スイス・ロマンダ管弦楽団とジュネーブおよび日本にてツアーを実施し、その艶やかな音色と表現により各方面より高い評価を得た。

Ayana Tsuji is one of the most promising young violinists of Japan. Born in Gifu in 1997, she started the violin at age 3. She was awarded First Prize at the 2016 Montreal International Competition, together with 5 other prizes. She has performed as soloist with orchestras such as the Montreal Symphony Orchestra, Orchestre de la Suisse Romande, NHK Symphony Orchestra, Tokyo Symphony Orchestra, Tokyo Philharmonic Orchestra, Nagoya Philharmonic Orchestra, Osaka Philharmonic Orchestra, Kyoto Symphony Orchestra. Ayana graduated from Tokyo College of Music. She studied with Kenji Kobayashi, Toshiko Yaguchi, Kimiko Nakazawa, Machie Oguri, Koichiro Harada and Régis Pasquier. In 2018, she received the 28th Idemitsu Music Award. Highlights of the 2019-2020 season include Japan tour of Orchestre de la Suisse Romande with Mo. Jonathan Nott. Ayana plays a Joannes Baptista Guadagnini 1748, on loan from the Yellow Angel NPO Corporation.

4/18 SAT.

イーゴリ・ストラヴィンスキー (1882～1971)

バレエ音楽「カルタ遊び」

イーゴリ・ストラヴィンスキーのバレエ音楽《カルタ遊び》は、アメリカ・バレエ団からの委嘱によって1936年に作曲され、1937年4月27日ニューヨークのメトロポリタン歌劇場で作曲家自身の指揮で初演された。これは、ストラヴィンスキーと振付家ジョージ・バランシンのアメリカでの最初の仕事であった。以後この二人のロシア人は、若い象のための《サーカス・ポルカ》など一風変わったバレエ作品などを生み出していった。これらのように、ストラヴィンスキーの音楽の特徴の一つは、音だけではなく身振りとも密接に結び付いていることであろう。彼の劇場での上演を目的に作られた作品は、1910年の《火の鳥》から1957年の《アゴン》まで20曲にのぼる。

《カルタ遊び》は3部からなり、台本はストラヴィンスキーが長男の友人ニキタ・マライエフと共作した。それぞれの部分は「ラウンド」と名付けられ、トランプのポーカーで遊ぶ様子が描かれる。主役は、どんなカードにもなれる、負け知らずのジョーカー。いたずらっ子のように、ゲームを混乱させようとする。最後にはディーラーの手が現れ、すべてのカードが持ち去られる、というのが大筋である。

各「ラウンド」を開始するのは、輝かしい行進曲のような「イントロダクション」である。これはカードテーブルにプレイヤーを招くいわば儀式で、ストラヴィンスキーがドイツの温泉街で体験した思い出がインスピレーションの源になっているという。それに続きさまざまなカードが登場し、ワルツなど多彩なダンスを繰り広げる。また途中に、ラヴェルの《ラ・ヴァルス》、ベートーヴェンの《交響曲第8番》、そしてロッシェニの《セビリヤの理髪師》の序曲からの引用がパロディー風に聴かれるのも面白い。

「カメレオン音楽家」と呼ばれるストラヴィンスキーは、実に多彩な様式の作品を書き残した。《カルタ遊び》はいわゆる新古典主義の時代のもので、明るいパレット、単純化された構造、そして折衷主義的な曲調が大きな特徴である。

越懸澤麻衣 TEXT by Mai Koshikakezawa

作曲：1936年

初演：1937年4月27日、ニューヨークのメトロポリタン歌劇場にて

編成：フルート 2(ピッコロ持替1)、オーボエ 2(イングリッシュ・ホルン持替 1)、クラリネット 2、ファゴット 2、ホルン 4、トランペット 2、トロンボーン 3、バス・チューバ 1、ティンパニ、大太鼓、弦5部

酒井健治 (1977～)

ヴァイオリン協奏曲「G線上で」

ヴァイオリン協奏曲「G線上で」は、2012年に開催されたエリザベート王妃国際音楽コンクールヴァイオリン部門のファイナルで課題曲として演奏されたものに加筆、拡大したものである。課題曲となった作品を第一楽章「ディアログ」とし、その後第二楽章、終楽章を加えた決定稿を2015年サントリーサマーフェスティバルにて初演した成田達輝さんに献呈している。第一楽章で提示された様々な動機は、4年の時を経て新たに書き加えられた第二楽章「レント」、終楽章「フィナーレ」において第一楽章とは異なる方法で再び使用され、作品の統一感を持たせている。動機が時間経過と共に展開されていく事により、第一楽章から終楽章に向けて大きな一つの流れを作る事を念頭に置いたのである。

技巧的のみならず、管弦楽と緻密なアンサンブルを形成しなければいけない第一楽章において、ヴァイオリン独奏があたかも管弦楽のオブリガートの様に連れ添うが、第二楽章においてその関係に変化が訪れる。ヴァイオリン独奏と管弦楽内のチェロ独奏とのデュオの後、ヴァイオリン独奏が次第にオーケストラをリードし始めると共に協和音が響き始める。第二楽章は終楽章への移行部として機能し、技巧的な長いカデンツァを経た後にアタックで迎える終楽章では協和音が楽章全体を支配すると同時に、カデンツァにおいてパガニーニを彷彿とさせる技巧性が終楽章における華やかなヴァイオリン独奏の名人芸へと導かれるのである。

3つの楽章を持つこの作品の第一楽章が最も重く、終楽章を軽くするという楽章間の力学的な配置は古典的な協奏曲に参照点が見て取れつつも、これまで述べた展開の方法論そのものはベートーヴェン等に見られる暗から明へ進行するというドラマ性と比較出来るのではと思う。全楽章で統一をはかる古典的な形式を尊重しつつも、第一楽章で提示された動機が終楽章まで展開、更新し続けるという不可逆的な進行が共存する一見矛盾した発想を一つの作品に閉じ込めようと試みた。

酒井健治 TEXT by Kenji Sakai

作曲：2012～2015年

初演：2015年8月30日「第25回芥川作曲賞選考演奏会」(サントリーホール)にて、杉山洋一(指揮)、成田達輝(ヴァイオリン独奏)、新日本フィルハーモニー交響楽団

編成：独奏ヴァイオリン、フルート2(ピッコロ持替2)、オーボエ2、クラリネット2(バス・クラリネット持替1)、ファゴット2、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、ティンパニ、ヴィブラフォン、鐘、カウベル、チューブラーベル、シンバル、スライドホイッスル、パイプ、マリンバ、フレグサトーン、水で満たされたバケツとガラガラヘビ、銅鑼、ばね(大小2)、ポリエチレンブロック5、トムトム、小太鼓、ツリチャイム、グラスツリー、ピプスラップ、ハーブ、ピアノ(チェレスタ持替)、弦5部

4/18 SAT.

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン (1770 ~ 1827)

交響曲 第2番 二長調 作品36

交響曲の歴史に大きな足跡を残したルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェンは、意外なほどに最初の交響曲を完成させるのが遅かった。第1番が初演されたのは、彼が30歳になる1800年のこと。その成功を受け、ベートーヴェンは比較的すぐに2作目の創作を始めた。スケッチは、1800年の秋頃から1802年2月頃のものが残されている。そして1803年4月5日、アン・デア・ウィーン劇場でベートーヴェン自身の指揮で初演された。その後、おそらく（ベートーヴェンのいつもの習慣で）出版の準備に際して細部が改訂され、1804年3月に出版。若きベートーヴェンを支えたパトロンのカール・リヒノフスキー侯爵に献呈された。

この交響曲が完成した1802年は、かの「ハイリゲンシュタットの遺書」が書かれた年である。ベートーヴェンは悪化する難聴に悩まされていた。しかしここには、そうした苦しみを微塵も感じさせない、生き生きとした世界が広がっている。また、1作ごとに前進しようというベートーヴェンの挑戦的な姿勢が明確に表れており、規模の点でも複雑さの点でも第1番を凌ぐ。オーケストラは、編成の観点では第1番と同じだが、管楽器が格段に活躍し、低弦がチェロとコントラバスとで独立した旋律を奏するなど、響きのパレットがより豊かになっているのも特徴的だ。

第1楽章は、33小節に及ぶ穏やかな序奏部の後アレグロ主部へ。主和音の分散和音を核とする第1主題は、ヴィオラとチェロのユニゾンが担当するという独創的なものである。非常に美しく抒情的な**第2楽章**は、一種のソナタ形式。ベルリオーズはこれを「気まぐれな憂鬱によって曇らされることのない、純真な幸福を描いた魅惑的な絵画」と表現した。**第3楽章**は、交響曲では初めて伝統的なメヌエットではなくスケルツォを採用。ピアノ、フォルテ、フォルティッシモと強弱を不規則に変化させることで、独特の流れが生まれている。**第4楽章**は高い緊張感で幕を開ける。最後までその激しい流れが維持され、長く華やかなコーダで閉じられる。

越懸澤麻衣 TEXT by Mai Koshikakezawa

作曲：1800年秋頃～1802年2月頃

初演：1803年4月5日、ウィーンのアン・デア・ウィーン劇場にて

編成：フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット3、ティンパニ、弦5部

4/25 SAT. 26 SUN.

UK IN JAPAN
2019-20

第679回 定期演奏会

2020年4月25日(土) 6:00p.m. サントリーホール

Subscription Concert Series No.679

Sat. 25th. April 2020, 6:00p.m. SUNTORY Hall

川崎定期演奏会 第75回

2020年4月26日(日) 2:00p.m. ミューザ川崎シンフォニーホール

Kawasaki Subscription Concert Series No.75

Sun. 26th April 2020, 2:00p.m. Muza Kawasaki Symphony Hall

ジョナサン・ノット [指揮]

ニール・デイヴィス [バスバリトン]

東響コーラス [合唱]

富平恭平 [合唱指揮]

小林孝誠 [コンサートマスター/客演]

Jonathan Nott, Conductor

Neal Davies, Bass-Britone

Tokyo Symphony Chorus, Chorus

Kyohei Tomihira, Chorusmaster

Issei Kobayashi, Concertmaster

藤倉大:海 (20')

エルガー:エニグマ変奏曲 作品36 (20')

休憩(20')

ウォルトン:

オラトリオ「ベルシャザールの饗宴」(36')

D.Fujikura: "Umi" for Orchestra (20')

E.Elgar: Variations on an original
theme, op.36, "Enigma" (20')

Intermission(20')

W.Walton:

Belshazzar's Feast (36')

- 主催/公益財団法人東京交響楽団
- 特別協賛/株式会社エイチ・アイ・エス
- 助成/文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)|独立行政法人日本芸術文化振興会
- 後援/川崎市(4/26)、「音楽のまち・かわさき」推進協議会(4/26)、在日スイス大使館、ブリティッシュ・カウンシル
- 協力/ミューザ川崎シンフォニーホール(川崎市文化財団グループ)(4/26)

楽曲解説はP.12をご覧ください



4/25 SAT. 26 SUN.



©Simon David Tschan

Neal Davies

Bass-Briton

ニール・デイヴィス
[バスバリトン]

イギリス生まれ。キングス・カレッジ・ロンドンと英国王立音楽院で学び、1991年BBCカーディフ・シンガー・オブ・ザ・ワールドでLieder Prizeを受賞。

2018/19シーズンには、レ・ヴィオロン・デュ・ロワ、フィラデルフィア管弦楽団(ベルナル・ラバディ)、ニューヨーク・フィルハーモニック(ジョナサン・コーエン)、バッハ・コレギウム・ジャパン(鈴木雅明)、ミュージック・オブ・ザ・バロック(ジェーン・グラヴァー)等著名なオーケストラ、指揮者と共演。また、ベルリン国立歌劇場にて「アーサー王」、BBCプロムスで「キリストの幼時(マーク・エルダー、ハレ管弦楽団)」に出演。

幅広いレパートリーを持ち、「アシスとガラテア」(2019、クリスティアン・カーニン、BBCミュージック・マガジン・アワード)、「メサイア」「テオドラ」「サウル」「天地創造」(2008、ポール・マクリーシュ、グラモフォン賞)、「ピリー・バッド」(2010、ダニエル・ハーディング、グラミー)等、数多くの演奏会で功績を残している。

Neal Davies studied at King's College, London and the Royal Academy of Music, and won the Lieder Prize at the 1991 Cardiff Singer of the World Competition.

Concert highlights this 2018/19 season include appearances with Les violons du Roy and Philadelphia Orchestra (Bernard Labadie), New York Philharmonic Orchestra (Jonathan Cohen), Bach Collegium Japan (Masaaki Suzuki) and Music of the Baroque (Jane Glover). He will return to the Deutsche Staatsoper Berlin for King Arthur and to the BBC Proms (L'enfance du Christ) with Sir Mark Elder and the Hallé.

His wide discography includes Acis and Galatea under Christian Curnyn (BBC Music Magazine Award, 2019) Messiah, Theodora, Saul and Creation (Gramophone Award, 2008) under McCreesh, Jenufa and Makropulos Case under Sir Charles Mackerras, Barber's Vanessa under Leonard Slatkin, Messiah under René Jacobs, the Hyperion Complete Schubert Edition with Graham Johnson, and Britten's Billy Budd with Daniel Harding (Grammy Award, 2010).

Kyohei Tomihira

Chorusrmaster **富平恭平** [合唱指揮]



東京藝術大学音楽学部指揮科卒業。指揮を高関健、田中良和の各氏に師事。オペラでの活動が多く、多数の公演で副指揮者、合唱指揮者、コレパティトゥア、プロンプターを務めている。東京二期会音楽スタッフ、新国立劇場音楽スタッフを経て、2019年4月より新国立劇場合唱団指揮者に就任。

Chorus **東響コーラス** [合唱]

東京交響楽団専属のアマチュア混声合唱団として1987年に創立。「東京交響楽団と一体の演奏をし、より質の高い合唱付きオーケストラ曲のコンサートを提供する」ことを目的としている。演奏する楽曲の背景や歌詞に使用されている言語に精通した、合唱指揮者・発声指導者・伴奏ピアニスト・言語指導者を招いた上、公演毎に出演者を決定するオーディションを行うことで、常に演奏の質を高めている。言語に関しては広く力を入れており、パーリ語、ジョージア語などの暗譜演奏を行うなど、様々な言語の歌唱に挑戦している。また、バロック音楽から現代音楽までを演奏し、合唱音楽の地平を広げている。第32回ミュージック・ペンクラブ音楽賞クラシック部門「室内楽・合唱部門」賞を受賞。

メンバー表

●指導者

合唱指揮:富平恭平
稽古ピアニスト:古瀬安子
言語指導:辻 裕久
発声指導:大森いちえい、武内朋子
辻 博之、藤井直美

●役員

委員長:岡野一哉 (Bas.)
副委員長:鳥居順子 (Sop.)
服部俊治 (Ten.)

●パートリーダー

Sop. : (正)岡 邦子 (副)遠藤由理
Alt. : (正)水越睦美 (副)尾田雅代
Ten. : (正)竹本大祐 (副)山内誠彦
Bas. : (正)水野 敬 (副)小林克彦

●コーラス委員

Sop. : 河村幸子、本行佳奈、鷗田まゆみ
Alt. : 小張さゆり、真栄城潔子、柳川智子
Ten. : 大崎 純、枇杷高志、和田 敏
Bas. : 西村 真、松木 望、柳合一彦、清水 達

●名誉メンバー

大塚栄津子
遠藤 譲
鈴木いく子

●Chor I

Sop.

坪内美加
鳥居順子
中村美奈子
林 汀
東原なお
樋口順子
小川暢子
本行佳奈
山鹿祐子
山下由美子
山田美生子
横井紀子
Alt.
東 恭代
甘利裕子
大内田由紀子
小名雅恵
垣花亜紗子

岸本裕子
工藤有子
後藤幸子
小林朋子
清水穂名美
高田恵子
高橋ユリコ
築屋玲子
中島奏子
福島里美
堀西香織
水越睦美
柳川智子
山内伸子
吉岡美佳子
渡邊朋子
Ten.
五十嵐建平

大崎 純
大島克義
小笠原清人
奥村博康
柿沢厚夫
川津泰人
木村 健
住吉保人
竹本大祐
谷川 啓
佃 浩一
辻 直浩
橋本憲人
枇杷高志
馬橋達成
Bas.
浅香 勝
今井俊博

兼子伸彦
菊池 靖
杉山慎二
竹内誠治
館野真一
玉井 文
中村基孝
西 宏隆
萩野 慎
早川克己
平川尚義
松木 望
水野 敬
宮坂知明
宮寺 昇
柳合一彦
山之内達也

●Chor II

Sop.

松本恵美
室井千晶
山之内文子
岡 邦子
鷗田まゆみ
Alt.
甘利久美子
安藤由紀
石渡範子
伊藤晴子
伊藤和歌子
尾崎いずみ
尾島夕里
尾田雅代
加藤由美子
河田美由紀
北野雅子
木内道子
小張さゆり

小山圭子
藤藤由紀
坂元靖子
坂本タカ子
須田真理子
関口あずみ
竹内あゆみ
田中美穂
外山恭子
藤田 栄
真栄城潔子
水沢祐美
鈴木みお
吉井久美子
吉村美恵子
Ten.
有馬 猛
内山誠彦
小川 敬

坂本宗男
鈴木徹也
竹内邦夫
竹田 忍
田戸陽一
谷川俊一郎
千葉尚邦
塚本 隆
中原裕幸
服部俊治
廣瀬泰文
古牧崇山
増則 隆
水谷晴彦
安江仁孝
Bas.
安藤志津夫
池上陽一郎
大足史郎

岡野一哉
川村真一郎
河村太郎
木内正則
小泉 徹
河野 愛
小林克彦
清水 達
田崎雅之
中野好則
西村 真
則 茂雄
星 加武史
堀 浩史
矢野 通
山崎弘光
横尾 優
吉村順邦
米田 光

4/25 SAT. 26 SUN.

藤倉大(1977～)

海

この作品はもともと僕の1作目のオペラを基に、作曲し直したものです。

出来上がったものはそのオペラとは違った印象を持つ、また別の音楽世界かな、と思います。

やはり、オペラの素材が基なので、この作品は大変リリカルなものです。もともと僕はメロディが書きたい、と思って子供の頃から作曲しているので、僕の中でははっきりとした旋律が常に流れています。時にはメロディとはっきり分からないかもしれないけれど、それを聴く人が、探偵のように耳をすませ、それらを見つけて頭の中で繋げていく。そうすることによって、知らない間に全く知らない世界に入り込んでいた、という空間を僕の書く音で作れたらな、と僕は思います。

今回のこの作品はそういう意味ではとってもわかりやすく、メロディが始終出てきます。そのメロディの間を、弦のトレモロがこちらに迫ってきたり、後ずさりしたりします。弦のトレモロは海の波を表し、海の波は波でも、ちょっと普通の波ではない感じ。幻想の中の海、波。心の中からのざわめきを表したかのような波がだんだんと迫ってくる。その間をうねり歩くように、複数のメロディが楽器によって演奏されます。

一応2楽章には分かれているものの、一つのオーケストラの曲。それなのにいろんな状況が、ぱとぱと展開して進んでいきます。流れ星のような弦のオーケストラのスタッカートグリッサンドがあったり、おどけたようなコントラバスとチェロのピッチカートで、よろよろとした部分があったりもします。そのすぐ後に、室内音楽のようなパーソナルな音楽が鳴ったかと思ったり、最後に向けて、盛り上がる中、そこを朗々とチェロとホルンの旋律がうねり歩きます。

僕は昔から海を眺めるのが好きです。それはやはり、いつ海を見ても、同じようには見えないう、海にはいろんな表情があるからです。まるで自分の心の中を映し出しているような。宇宙から見た地球の海を見ると必ず涙が流れる、と言っている宇宙飛行士のインタビューを読んだことがあります。

人間は、海を見ると必ず感動するようにデザインされているからだ、と。

藤倉大 TEXT by Dai Fujikura

作曲:2014/2017

初演:2014/2017年

編成:フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット3、トロンボーン1、ヴィブラフォン、大太鼓、鐘、チェレスタ、弦5部

エドワード・エルガー (1857～1934)

エニグマ変奏曲 作品36

1899年6月19日にロンドンで初演された後、ドイツやロシア、アメリカなどの諸国で演奏された通称「エニグマ(謎の)変奏曲」(オリジナルの主題による変奏曲「謎」)は、イングランドの中西部、ウスターという街の近郊で生まれたエドワード・エルガーの出世作となった。友人・知人、さらには自分自身や愛妻のキャラクターを音楽に投影させた巧妙な変奏曲だが、あえて演奏しない隠し主題もあり、それが「謎」というタイトルに反映されているという。

曲は穏やかな主題で幕を開け、休みなく同じ雰囲気**の第1変奏**(C.A.E.=妻キャロライン・アリス)へ。せわしない**第2変奏**(H.D.S-P.)は、室内楽仲間のヒュー・デヴィッド・スチュアート＝パウエル。おどけたような**第3変奏**(R.B.T.)はアマチュア俳優のリチャード・バクスター・タウンゼンド。力強い**第4変奏**(W.M.B.)は地主のウィリアム・ミース・ベイカー。哀愁が漂う**第5変奏**(R.P.A.)はピアニストのリチャード・ベンローズ・アーノルド。ヴィオラがクローズアップされる**第6変奏**(Ysobel)は、ヴィオラの生徒であるイザベル・フィットン。スピード運転のような**第7変奏**(Troyte)は建築家のアーサー・トロイト・グリフィス。牧歌的な**第8変奏**(W.N.)は友人のウィニフレッド・ノーブリー。休みなくひそやかに始まる**第9変奏**(Nimrod)は、楽譜出版社ノヴェロのスタッフ、アウグスト・イエガー。愛らしい**第10変奏**(間奏曲:Dorabella)は、ドラ・ペニーという女性。急流下りのような**第11変奏**(G.R.S.)は、オルガン奏者であるジョージ・ロバートソン・シンクレアの愛犬が、慌てふためいて川に飛び込んでしまう様子。**第12変奏**(B.G.N.)は、チェリストのバイジル・G・ネヴィンソン。**第13変奏**(ロマンツァ:***)は劇的な人生を送った貴族のメアリー・ライゴンだとされるが、他の女性説もあるなど、これもまた「謎」のひとつ。全曲を閉じる**第14変奏**(フィナーレ:E.D.U.)はエルガー本人の自画像である。

オヤマダアツシ TEXT by Atsushi Oyamada

作曲: 1898年～1899年

初演: 1899年6月19日、ロンドン、セント・ジェームズ・ホール。ハンス・リヒター指揮。

編成: フルート2(ピッコロ持替1)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、コントラ・ファゴット1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、バス・チューバ1、ティンパニ、小太鼓、トライアングル、大太鼓、シンバル、弦5部

4/25 SAT. 26 SUN.

ウィリアム・ウォルトン(1902～1983)

オラトリオ「ベルシャザールの饗宴」 ～バリトン独唱、混声合唱とオーケストラのためのカンタータ

エルガーより45年後にイングランド北西部のランカシャー州で生まれたウィリアム・ウォルトンは、10歳のときに入学したオックスフォード大学の聖歌隊学校で音楽の知識を習得。その後はロンドンで聴いた同時代のさまざまな新しい音楽(シェーンベルクをはじめとする新ウィーン楽派やストラヴィンスキーの作品、そして当時はジャズと総称された種々のダンス音楽等)が彼の耳と才能を刺激し、結果として独特の叙情美と多彩なリズムの競演が作り出すオリジナリティを確立していく。

1931年10月8日に初演された「ベルシャザールの饗宴」は、当時29歳だったウォルトンの名前と評価を一気に高めた。ユダヤ人を強制的にバビロニアへ連行したバビロン捕囚、旧約聖書の『ダニエル書』で伝えられるバビロニア王ベルシャザールが謳歌した享樂的な繁栄、さらには神の裁きによって崩壊するバビロンの街と解放されたユダヤ人の歓喜を描いたこの作品は、大編成によるスペクタクルな音響で聖書の一節を映画のように描き出す。

曲はまず、バビロン捕囚によって苦しめられるユダヤ人の心情をシリアスに描く。バリトン・ソロが力強く「かつてバビロンは大いなる都であった」と宣言して始まるセクションは、文字通りの大饗宴であり、王と街、バビロニア人の繁栄を種々の言葉と音楽で讃える。邪教の神への賛美や偶像崇拜も歌われ、2群のバンドを含むオーケストラがそれに応えるなど、聴き手を楽しませてくれる箇所もあるほか、ウォルトン特有のアイデアが散りばめられている。

しかしその盛り上がりが高潮に達すると、音楽が突然静まり、バリトン・ソロが神の裁きと(空中に手が現れ、ベルシャザールが王の器にないことを文字で告げる有名な場面)、ベルシャザール王の暗殺、一夜にしてバビロンが崩壊したことを宣言。解放されたユダヤ人の歓喜と唯一神ヤハウェ(エホヴァ)への賛美を歌い上げ、力強いフィナーレを迎える。

オヤマダアツシ TEXT by Atsushi Oyamada

作曲：1929年頃～1931年

初演：1931年10月8日、イングランド、リーズ(リーズ音楽祭)。マルコム・サージェント指揮。

編成：バリトン独唱、混声合唱、ピッコロ1、フルート2、オーボエ2、クラリネット3(小クラリネット持替1、バス・クラリネット持替1)、アルト・サクソフォーン1、ファゴット2、コントラ・ファゴット1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン2、バス・トロンボーン1、バス・チューバ、ティンパニ、小太鼓、テナードラム、大太鼓、トライアングル、シンバル、カスタネット、タンブリン、鐘、シロフォン、グロッケンシュピール、ウッドブロック、スラップスティック、アンヴィル、ハープ2、オルガン、弦5部
バンド/(トランペット3、トロンボーン3、チューバ1)×2グループ

W.Walton: Belshazzar's Feast

ウォルトン:オラトリオ「ベルシャザールの饗宴」

[歌詞対訳]

訳: 辻 裕久

Belshazzar's Feast

Thus spake Isaiah :
Thy sons that thou shalt beget,
They shall be taken away
And be eunuchs
In the palace of the King of Babylon.
Howl ye, howl ye, therefore:
For the day of the Lord is at hand.

.....

By the waters of Babylon,
There we sat down: yea, we wept
And hanged our harps upon the willows.

For they that wasted us
Required of us mirth;
They that carried us away captive
Required of us a song.
'Sing us one of the songs of Zion' .

How shall we sing the Lord's song
In a strange land?

If I forget thee, O Jerusalem,
Let my right hand forget her cunning.
If I do not remember thee,
Let my tongue cleave to the roof of my mouth;
Yea, if I prefer not Jerusalem above my chief joy.

By the waters of Babylon,
There we sat down: yea, we wept.

O daughter of Babylon, who art to be destroyed,
Happy shall he be that taketh thy children
And dasheth them against a stone.
For with violence shall that great city Babylon be
thrown down,
And shall be found no more at all.

ベルシャザールの饗宴

イザヤはこのように述べた
あなたの子孫は
みな連れ去られ
バビロン王の宮殿において
宦官にされるだろう
ゆえに汝ら 怒り 叫べ
主による審判の日は近い

.....

大河バビロンのほとりに
我らは座し 涙した
そして柳の枝に豎琴を掛けた

我らを逆らえぬようにし
気晴らしを求めたからである
我らを連れ去り 捕らえて
歌うことを強いたのだ
「我らにシオンのうたを歌え」と

どうして主のうたを歌えようか
このような異教徒の地において

おお エルサレムよ もし私があなたを忘れるなら
この右手を不自由にしてください
もし私があなたを思い出せないなら
この舌を上顎についたままにしてください
さよう もしこの私がエルサレムを至福としないなら

大河バビロンのほとりに
我らは座し 涙した

おお 滅びる運命にある バビロンの娘よ
汝の子らを捕らえ
岩に叩き付ける者は さいわいである
大都市バビロンは激しい力によって打ち倒され
跡形もなく消え去るからである

W.Walton: Belshazzar's Feast

ウォルトン: オラトリオ「ベルシャザールの饗宴」

Babylon was a great city,
Her merchandise was of gold and silver,
Of precious stones, of pearls, of fine linen,
Of purple, silk and scarlet,
All manner vessels of ivory,
All manner vessels of most precious wood,
Of brass, iron and marble,
Cinnamon, odours and ointments,
Of frankincense, wine and oil,
Fine flour, wheat and beasts,
Sheep, horses, chariots, slaves,
And the souls of men.

かつてバビロンは大いなる都であった
その商いは 金 銀
宝石 真珠 リネン
紫布 絹 緋布
様々な象牙の器
高価な木材の器
真鍮 鉄 大理石
肉桂 香水 軟膏
乳香 葡萄酒 食用油
小麦粉 麦 家畜
羊 馬 馬車 奴隷
そして人身などであった

In Babylon
Belshazzar the King
Made a great feast,
Made a feast to a thousand of his lords,
And drank wine before the thousand.

そのバビロンで
ベルシャザール王が
盛大に饗宴を催した
千人の首長にもてなしを用意し
千人を前に酒に興じた

Belshazzar, while he tasted the wine,
Commanded us to bring the gold and silver vessels:
Yea! the golden vessels, which his father,
Nebuchadnezzar,
Had taken out of the temple that was in Jerusalem.

ベルシャザールは酒が進むと
我らに金銀の器を持ってくるよう命じた
さよう! 金の器は彼の父ネブカデネザルが
かつてエルサレムの神殿より奪い去ったもの

He commanded us to bring the golden vessels
Of the temple of the house of God,
That the King, his Princes, his wives
And his concubines might drink therein.

つまり彼は 神の宮である神殿から奪ってきた
金の器を持ってくるよう 我らに命じたのだ
それは王と その王子たち 妻たち
そして側室らが 酒を飲み交わすためであった

Then the King commanded us:
'Bring ye the cornet, flute, sackbut, psaltery,
And all kinds of music'. They drank wine again,
Yea! drank from the sacred vessels.
And then spake the King:

そして王はさらに命じた
「コルネット フルート サクバット ソルタリーをもて
そしてあらゆる音楽を奏でよ」と 彼らは再び飲み始めた
さよう! 聖杯をもって酒を酌み交わし
さらに王は こう唱えた

'Praise ye
The God of Gold.
Praise ye
The God of Silver.
Praise ye
The God of Iron.
Praise ye
The God of Wood.
Praise ye
The God of Stone.
Praise ye
The God of Brass.
Praise ye the Gods!'

Thus in Babylon, the mighty city,
Belshazzar the King made a great feast,
Made a feast to a thousand of his lords
And drank wine before the thousand.

Belshazzar, while he tasted the wine,
Commanded us to bring the gold and silver vessels
That his Princes, his wives and his concubines
Might rejoice and drink therein.

After they had praised their strange gods,
The idols and the devils,
False gods who can neither see nor hear,
Called they for the timbrel and the pleasant harp
To extol the glory of the King.
Then they pledged the King before the people,
Crying, 'Thou, O King, art King of Kings:
O King, live for ever' . . .

And in that same hour, as they feasted,
Came forth fingers of a man's hand
And the King saw
The part of the hand that wrote.

「汝ら
金の神を賛美せよ
汝ら
銀の神を賛美せよ
汝ら
鉄の神を賛美せよ
汝ら
木の神を賛美せよ
汝ら
石の神を賛美せよ
汝ら
真鍮の神を賛美せよ
汝ら諸々の神を賛美せよ！」

斯くして強大なる都市バビロンにおいて
ベルシャザル王は盛大なる饗宴を催し
千人の首長にもてなしを用意し
千人を前に酒に興じた

ベルシャザルは酒が進むと
我らに金銀の器を持ってくるよう命じた
それは彼の王子たち 妻たち そして側室らが
そこで飲み 楽しむためであった

彼らは 異教の神々
偶像神 魔神
見たことも聞いたこともない まやかしの神々を賛美し終えると
ティンブレルや心地よい音色の堅琴を持って来させ
今度は 王の栄光を称揚しはじめた
さらに人々の前で王に忠誠を誓い
「おお 王の中の王
我らが王よ 常しえなれ」と叫ぶ . . .

するとそのとき 酒宴の盛りに
突如人の手の指が現れ
壁に文字を書くのを
王は目の当たりにした

W.Walton: Belshazzar's Feast

ウォルトン:オラトリオ「ベルシャザールの饗宴」

And this was the writing that was written:
'MENE, MENE, TEKEL UPHARSIN'
'Thou art weighed in the balance
and found wanting' .
In that night was Belshazzar the King slain
And his Kingdom divided.

記された文字はこうであった
『メネ メネ テケル ウファルシン』
「汝 秤にて測られ
その量の足りぬことがわかった」
その夜のうちにベルシャザール王は命を絶たれ
王国は分かたれた

Then sing aloud to God our strength:
Make a joyful noise unto the God of Jacob.
Take a psalm, bring hither the timbrel.
Blow up the trumpet in the new moon,
Blow up the trumpet in Zion,
For Babylon the Great is fallen.
Alleluia!

いざ 我らの力なる神に向かい 高らかに歌え
ヤコブの神に向かい喜びの声をあげよ
賛歌と ティンブレルをもって
新月にトランペットを吹きならせ
シオンに向かいトランペットを吹きならせ
大いなる都バビロンは陥落した
アレルヤ!

Then sing aloud to God our strength:
Make a joyful noise unto the God of Jacob,
While the Kings of the Earth lament
And the merchants of the Earth
Weep, wail and rend their raiment.
They cry, 'Alas, Alas, that great city,
In one hour is her judgement come' .

いざ 我らの力なる神に向かい 高らかに歌え
ヤコブの神に向かい喜びの声をあげよ
地上の王たちが嘆き
地上の商人たちが
悲しみ 衣服を引き裂き 声をあげて泣くときに
彼らは叫ぶ 「ああ ああ かの大いなる都も
瞬く間に審判が下された」と

The trumpeters and pipers are silent,
And the harpers have ceased to harp,
And the light of a candle shall shine no more,

トランペット吹き 笛吹きは沈黙し
豎琴弾きはその手を止め
もはや蠟燭の火も灯されることはない

Then sing aloud to God our strength:
Make a joyful noise to the God of Jacob.
For Babylon the Great is fallen.
Alleluia!

いざ 我らの力なる神に向かい 高らかに歌え
ヤコブの神に向かい喜びの声をあげよ
大いなる都バビロンは陥落した
アレルヤ!

Ludwig van
Beethoven

Symphony Lounge

[シンフォニー・ラウンジ]

ベートーヴェン生誕250周年記念 欧米の記念演奏会を巡る

後藤菜穂子 (音楽学) Text by Nahoko Gotoh

2020年はベートーヴェンの生誕250周年にあたるが、実際には彼が「誕生」した日はわかっていない。記録に残っているのは、彼が1770年12月17日にドイツのボンの聖レミギウス教会で「洗礼」を受けたという事実だ。当時は、赤児は出産から24時間以内に洗礼を受けるのが原則だったため、前日に生まれたのだろうと考えられている。となると、彼の250歳の誕生日は本年の12月16日ということになるが、お祝いはすでに2019/20年のシーズン、すなわち昨秋から始まっている。

早くから記念プロジェクトに着手したのは、フランスの気鋭、エペーヌ弦楽四重奏団。

2019年4月から2020年1月にかけて、北南米、オーストラリア、アフリカ、インド、アジアおよびヨーロッパ各地でベートーヴェン・ツアーを行ない、各ツアーの最終公演をライブ録音、それをまとめた全集をリリースするという壮大なプロジェクトに取り組んだ。そこには、昨年7月に東京・サントリーホールでのブルーローズで収録された公演も含まれている。本来であれば、本プロジェクトは4月にニューヨークのカーネギーホールでの全曲サイクルでクライマックスを迎えるはずだったが、残念なことに現在の新型コロナウィルスの感染拡大を受けて中止となってしまった。

ベートーヴェン生誕250周年 記念欧米の記念演奏会を巡る

このように欧米でのベートーヴェン・イヤー行事は、3月半ば以降中断せざるを得ない状況が続いており、果たして9月にボンで開催される記念年のベートーヴェン・フェスト(9月4~27日)までに事態が収束するのかどうか、予断の許さないとこだ。そのため、本稿では今年の1月から3月前半までに行われたいくつかの公演についてご紹介することにしよう。

ロンドンではサイモン・ラトルとロンドン交響楽団は1~2月に、取り上げられることの少ないオラトリオ《オリブ山上のキリスト》を核としたプログラムでヨーロッパ・ツアーを行った(筆者は2月13日のロンドン公演を聴いた)。1803年の作曲、すなわちハイドンの《四季》の初演のわずか2年後の作品ということで、オーケストラの書法からは師でもあったハイドンの影響が強く感じられた。その一方で、一人称で歌われるキリスト(独唱:パーヴォル・ブレスリク)のパートは感情表出に富み、若きベートーヴェンのロマン主義的な感性が顕著であった。

一方、サラネンとフィルハーモニア管弦楽団は、ベートーヴェンが1808年12月22日に開催した伝説的な演奏会のプログラムを再現した(3月15日)。すなわち、交響曲第5・6番、ピアノ協奏曲第4番とピアノと合唱幻想曲(独奏:ピエール=ロラン・エマル)、ミサ曲ハ長調より「グローリア」、演奏会用アリア「ああ、裏切り者」(独唱:ゴルダ・シュルツ)などを並べた長大なプログラムである。この公演はまさに忍び寄りコロナ危機の中で行われ、聴衆も曲に内在するベートーヴェンの不屈の精神と希望のメッセージに勇気づけられたことが評から読み取れる。その直後に英国でも外出制限措置が打ち出され、当面の間、ロンドンのホールにもオーケストラのサウンドが鳴り響くことがなくなった。

ロンドンのロイヤル・オペラ・ハウスでは3月1日に新制作の《フィデリオ》が開幕した。今、飛ぶ鳥を落とす勢いのドイツ人トビアス・クラッツァーの演出、フロレスタンには人気のヨナス・カウフマン、レオノーレにはノルウェーの新星ソプラノのリーゼ・ダヴィドセンという魅力的な

布陣で、チケット入手も困難をきわめた。クラッツァーのコンセプトは、第1幕を18世紀のフランス革命直後の時代、第2幕を現代に設定。今の世の中にもいる、不当に逮捕・監禁されている者に対するわれわれの姿勢を問直すメッセージ性の強い演出であった。筆者はこの初日を鑑賞、カウフマンは体調が万全ではなかったが、ダヴィドセンのレオノーレは圧巻!若さと豊かな声量、そして楽々とする伸びやかな高音。ベートーヴェン・イヤーの最大の収穫と思うほどで、ぜひこの役を末永く歌ってほしい。

《フィデリオ》はベートーヴェンの唯一のオペラなので、多くの歌劇場が今季取り上げているわけだが、ウィーン国立歌劇場では初稿版の《フィデリオ》(レオノーレ)を上演した。これは歌手のパートがより難しいことでも知られるが、演出家のアメリカ・ニールマイヤーは、夫フロレスタンを救出に行くまでのレオノーレの心の葛藤を、歌い手のレオノーレと、内なる声を表現する女優のレオノーレとの対話を加筆することで浮き彫りにした。この演出は、筋通りに救出→大団円とならないのも特徴だが、21世紀の私たちにとってこの作品がどういった意味を持つか、という点を掘り下げていた点で、クラッツァーの演出とも共通している。歌手陣ではベンヤミン・ブルンスのフロレスタンが若々しくリリカルな歌唱で際立っていた。

最後に、ベートーヴェンが終の住処としたウィーン発のプロジェクトをもう一つご紹介しよう。ベートーヴェンのスペシャリストといってもよいピアニストのルドルフ・ブッフビンダーが、3月3日にウィーン楽友協会で「ディアベッリ2020」プロジェクトを始動した。すなわち、彼は《ディアベッリ変奏曲》と合わせて弾くために、12人の現代作曲家(細川俊夫、イェルク・ヴィトマン、タン・ドゥン他)に新しい変奏曲を委嘱したのである。ウィーンでのお披露目後には世界ツアーが予定されていたが、目下中断している。幸いDGレーベルから2枚組のアルバムとしてリリースされているので、この記念の年にぜひ聴いてみてほしい。

Together With TSO

for Music Lovers

東京交響楽団サポート会員

©N.Ikegami

ご芳名 (敬称略)

法人会員

プラチナ会員

株式会社エイチ・アイ・エス
ハウステンボス株式会社

ダイヤモンド会員

有限責任 あずさ監査法人
株式会社伊藤総合事務所
株式会社インサイド・アウト
花王株式会社
環境ステーション株式会社
学校法人創志学園
株式会社ティー ワイ リミテッド
株式会社日本財託
ピーアークホールディングス株式会社
株式会社フェイス
株式会社ペッパーフードサービス

ゴールド会員

株式会社青山メインランド
イーサポートリンク株式会社
サントリーホールディングス株式会社
新菱冷熱工業株式会社
セントラル短資FX株式会社
社会医療法人財団石心会
玉川学園・玉川大学
玉の肌石鯨株式会社
中外製薬株式会社
株式会社TFDコーポレーション
株式会社鉄鋼ビルディング
株式会社トーションパートナーズ
西松建設株式会社
株式会社NIPPO
株式会社日本M&Aセンター
株式会社日本ポステム
株式会社パソナ
ヒノキ新薬株式会社
司法書士法人ふなざき総合事務所
株式会社ぶらう
丸紅新電力株式会社

ゴールド会員

ミヨシ油脂株式会社
ヤマザキビスケット株式会社
横浜自動車部品株式会社

シルバー会員

株式会社エスティア
株式会社NHKビジネスクリエイト
公益財団法人青梅佐藤財団
川崎信用金庫
学校法人順心広尾学園
松竹株式会社
有限会社青史堂印刷
月島食品工業株式会社
東京鐵鋼株式会社
日本宅配システム株式会社
株式会社野毛印刷社
久光製薬株式会社
本田技研工業株式会社
司法書士法人村田事務所
株式会社LALLヒューマンホールディングス

ブロンズ会員

*アーティス ホールディングス株式会社
NPO法人かわさき市民アカデミー
酒蔵駒八 別館
株式会社シグマコミュニケーションズ
新宿村スタジオ
ニッシンエレクトロ株式会社
富士ゼロックス神奈川株式会社
前山歯科医院
株式会社ヤクワ
株式会社ワイ・ティ・ビー

賛助企業

アサヒビール株式会社
東海大学教養学部 芸術学科音楽学課程
政鬼運輸株式会社
山崎製パン株式会社

匿名5社



©N. Ikegami

東京交響楽団へご支援いただいている皆様です。心より感謝申し上げます。

*新会員の方です。ありがとうございました(4月1日現在、五十音順)。

個人会員

サークル50

磯村文靖	清水尚彦
伊藤晴美	長瀬雅則
伊藤美樹	水野秀一
鷗海量明	山本誠一郎
木暮紀子	横川 端
澤田秀雄	依田 巽
	匿名 2 名

サークル25

沖田陽子	山口 学
大木志乃生	山口和子
金山尚弘	匿名 1 名

サークル10

荒木陽子	田口之博
*五十嵐建平	竹田 忍
猪田隆文	猪田 清
伊藤 弘	*手塚和彦
*伊藤弥緒乃	戸川二郎
井上孝昭	中澤守正
内山誠彦	中瀬倉祥
梅沢麻衣	野口恵三
遠藤秀和	浜 信昭
大城明幹	濱名 剛
太田純子	早川正希
岡 邦子	原田美保子
岡野一哉	アーネスト
梶井龍太郎	M. 比嘉
片山泰輔	堀川将史
金子 元	増岡聡一郎
菊池光剛	峯岸恭博
小林 光	村本京子
古丸 健	村本信幸
近藤和喜夫	山口重雄
斎藤脩司	山口長満
佐々木真	山本 明
佐藤大助	吉川麗月
塩沢誠司	吉田治喜
清水幹雄	吉村美恵子
高津麻子	米岡修一
高島琢己	渡邊憲一
高家正行	匿名 13 名

フレンド5

石澤卓志	高野幸一
*大足史郎	寺澤佳代
大野紀子	徳坂照雄
後藤 実	古庄忠雄
坂本 潔	山口 聡
高澤美貴子	匿名 5 名

フレンド3

東 恭代	炭竈 剛
天野 亘	関根三善
井上 聡	田中健一
内海重男	*辻 直浩
*大賀裕一	都築 豊
大川朋彦	仲川昌宏
大崎 純	長瀬利明
大塚具幸	中村幸雄
尾島夕里	西岡浩史
皆瀬 修	西村建哉
何 相全	西依智子
川村純一郎	野口敏嗣
木賀賢子	野田尚武
久保田一穂	野田佳克
郡 克彦	福田昭夫
古杉 絢	堀 哲也
小林公子	森本 篤
小山忠司	森山雅一郎
酒井康夫	安江美穂
佐久間智子	山内貴弘
佐藤健司	吉田 正
清水良枝	Y.T.
*須田真理子	匿名 10 名

フレンド1

■あ	五十嵐秀一
秋山真一郎	井倉 叡
明田重樹	石原祥子
浅川有基	磯村幸一郎
浅里文男	*井田直子
安藤志津夫	井手泰宏
安藤修子	伊藤晴子
安藤智昭	伊藤寛明
安仲充子	伊藤宗功

伊藤力雄	奥村和子
*稲田めぐみ	小倉利枝
*稲葉順一	小澤信正
井上康子	小名雅恵
今井由紀夫	小野沢直人
岩澤淳子	小野塚純二
岩瀬順子	■か
岩瀬正明	海藤慶子
岩田 新	柏木正弘
岩田由紀	*柿市悟志
上田 滋	片山千栄
上田順子	加藤啓子
上田洋子	加藤由美子
上野哲司	兼子伸彦
潮田伊織	狩野裕基
*宇田川晋	*上村綾子
内川真名子	*川合孝一
内海ゆり	川口善行
宇野正芳	川中孝文
梅里拓志	*川之上裕美子
梅本千枝子	河原 徹
江川信彦	河村陽子
*大澤寅雄	菊池万美子
大嶋孝義	北野雅子
大島裕美子	北村 真
大島康彦	城処 隆
大瀧憲一	木内正則
太田健司	木内道子
大塚賀久	*木下盛弘
大貫浩史	木下泰子
大貫由香	木村好一
大橋昌資	木村民子
大畑喜信	木村富士子
大森幸吉	木村美智子
*岡田智子	木村幸男
岡田明寛	*工藤有子
岡庭明子	栗原 潔
岡野明德	玄間美幸
岡部守男	*小池宏幸
小川幾子	小嶋麻理
奥泉亮子	小杉順也
奥瀬 篤	小林恭二
奥田由美子	小林宏州
	小林 浩

Together With TSO

for Music Lovers

東京交響楽団サポート会員

©N.Ikegami

ご芳名 (敬称略)

小林 洋
 * 小山賢一
 小山幸子
 ■ さ
 齋藤稔晃
 齋藤ひろ子
 齋藤将隆
 * 齋藤良江
 榊 英純
 * 坂瓜辰美
 坂元靖子
 坂本タカ子
 前刀禎明
 桜井祐市
 佐々木直人
 笹原 勉
 佐瀬信行
 佐藤幸子
 佐藤 孜
 佐藤敏明
 佐藤紀子
 里見正憲
 設楽 猛
 芝崎有男
 柴崎晴雄
 柴橋俊也
 * 渋川朋子
 嶋谷宏明
 清水敬一
 生野隆久
 白石 智
 白石 大
 杉田忠史
 * 杉田弘也
 杉本昌彦
 杉山重明
 杉山慎二
 鈴木いく子
 鈴木栄子
 鈴木啓介
 鈴木孝治
 清木 達
 清木穂名美
 關 俊朗

関 洋
 * 関口あずみ
 ■ た
 高石祐次
 高木敏和
 高田恵子
 高野洋二
 高橋ユリコ
 * 高松則雄
 田川智也
 竹内聖子
 竹前英子
 田代雅春
 * 田中敦子
 田中治郎
 谷川 啓
 玉井正浩
 千田晴久
 常岡千城
 寺田治男
 * 時本芳則
 鳥居順子
 鳥居夕紀夫
 ■ な
 * 中川紫音
 中塚博則
 中村紀美子
 * 中村太郎
 * 中村基孝
 * 西川 晶
 西澤嘉康
 西中川淑子
 西村淳夫
 * 西村真一
 西谷千賀子
 西山英昭
 根本直之
 野村勝美
 ■ は
 箱崎芳雄
 橋本憲人
 長谷川健一
 長谷川博
 波多ミサエ

八田庄一
 馬場宏一
 濱尾 仁
 早川克巳
 林田和代
 林 直之
 林 博子
 原ひとみ
 樋口順子
 樋口 實
 平岡 要
 平塚吉之
 廣瀬泰文
 深沢茂美
 藤田 栄
 古市雄二
 星 直樹
 * 堀 浩史
 本多崇志
 ■ ま
 前田 泉
 真木太郎
 増田 敬
 松井孝治
 松岡公代
 松尾淳一
 松川好孝
 * 松木 望
 松下泰之
 * 松永真由美
 松村悠紀子
 松本 繁
 圓尾雅則
 水谷晴彦
 三田純子
 三橋祐太
 * 宮川悦子
 宮坂健司
 宮寺 昇
 村瀬正子
 村田拓郎
 森 里美
 森下真弓
 森島政和

毛呂信昭
 ■ や
 安田茂生
 柳本友幸
 山縣裕児
 山上典彦
 山岸勇一郎
 * 山崎由美子
 山口政継
 山田家伸
 山田修造
 山田昌克
 山田義則
 山出 宏
 * 山之内達也
 * 山之内文子
 * 山本京子
 山本直樹
 山本 博
 鎗水みお
 吉井久美子
 * 吉沢真由美
 吉田 淳
 米谷克幸
 ■ わ
 渡邊昭彦
 * 渡辺明裕
 ■ C.S.
 N.S.
 匿名87名
 ■ 荣誉会員
 ヨーコ・ナガエ・
 チェスキーナ

遺贈ご寄付 (敬称略)

竹内容子
 齋藤公治メモリアル基金
 岡橋純男
 岡橋 孜

法人定期会員

【定期演奏会】
 東京コンテナ工業株式会社



特別後援会員制度のご案内

当楽団では公演の1営業日前までにご欠席の連絡をくださった方には、入場券代はお返し致しませんが、特別後援会員として1年間定期公演のプログラムにお名前を掲載させていただきます。当団主催公演の入場券を5%引き(TOKYO SYMPHONY チケットセンター扱いのみ)にてお求めいただけます。お求めの際に特別後援会員であることをお申し出ください。なお、対象となる演奏会は当団が指定する主催公演です。

池田信臣	佐藤悦子
池田 均	篠原信夫
石川明子	関根三善
石川 章	中島美奈子
内田恵美子	藤沼 純
大橋美可恵	森山雅一郎
小川 健	匿名5名 (敬称略)

ご連絡は
 TOKYO SYMPHONY チケットセンター
 044-520-1511 へ
 お電話でお願いいたします。



©N. Ikegami

<東京交響楽団サポート会員制度>

東京交響楽団は、一流指揮者の招聘やチャレンジングなプログラミングによる定期演奏会の充実、次世代を担う子供たちの育成等、これまで以上に積極的な演奏活動を展開し、音楽文化の向上に努めて参ります。そのため不可欠な運営基盤の強化のため、広くご支援をお願いしております。みなさまのご入会を心よりお待ちしております。

個人会員

フレンズ1

年額1万円
～29,999円

フレンズ3

年額3万円
～49,999円

フレンズ5

年額5万円
～99,999円

サークル10

年額10万円
～249,999円

サークル25

年額25万円
～499,999円

サークル50

年額50万円～

法人会員

東京交響楽団とのパートナーシップは、御社のイメージアップにつながるだけでなく、従業員の皆様の福利厚生にもつながります。

ブロンズ

年額10万円～

シルバー

年額30万円～

ゴールド

年額50万円～

ダイヤモンド

年額100万円～

プラチナ

年額1000万円～

会員特典	詳細はHP、 又はお電話でお問合せ下さい	法人会員		フレンズ会員		
		サークル 会員	フレンズ5	フレンズ3	フレンズ1	
主催公演へご案内		○	○			
出演者・楽員との懇親会		○	○			
オリジナルイベント		○	○	○	○	
ゲネプロ見学会(年3回以上)		○	○	○	○	
リハーサル見学会(年3回以上)		○	○	○	○	○
ご芳名掲載		○	○	○	○	○
主催公演チケット先行予約*1		○	○	○	○	○
公演チケットをご優待価格にてご案内*2		○	○	○	○	○

*1 一部対象外もございます。*2 東京交響楽団の主催公演およびミュージアムザ川崎シンフォニーホール主催公演が対象です。一部対象外もございます。

税制上の優遇措置について

東京交響楽団は内閣府より公益財団法人の認定を受けており、当楽団への御寄附には税制上の優遇措置が施されます。

◎個人の場合：「寄附金額から2,000円引いた金額」の40%分^{*3}について、税金(所得税・個人住民税)を控除されます。

また相続税にも控除が適用されます。

◎法人の場合：「損金算入限度額」が一定の算式に従い、拡大されます。^{*3}

^{*3}但し、各該当法令で定められた限度があります。

その他、マッチングギフトやご遺贈についてもご案内させていただいております。

公式サイトからクレジットカードでサポート会員にご入会(ご寄付)いただけるようになりました。

<http://tokyosymphony.jp/support/procedures.html>



サポート会員へのご入会・お問合せ **TEL 044-520-1518**

公益財団法人東京交響楽団川崎オフィス 支援開拓本部

E-mail supporters@tokyosymphony.com

Meet the Musicians

楽団員紹介

イギリス出身、常に学び続けるヴァイオリニスト

大和田 ルース

Ruth Owada

〔第1ヴァイオリン奏者〕1987年11月入団

趣味：旅行、言語習得



©N.Ikegami

ヴァイオリンとピアノと

7歳のときにピアノをはじめ、10歳のときに、同級生がケースを持って校内を移動していたのに憧れて、ヴァイオリンを始めました。そこからは二刀流。王立音楽大学もヴァイオリンとピアノのダブル専攻で卒業しました。その後3年間は寄宿学校の音楽教師として子どもたちにヴァイオリンやピアノを教えました。学校に世界中から生徒が集まっていたので、次第に「私も海外に行つてみたい」と思うようになり、その後ドイツのパスサウ市立歌劇場管弦楽団に入団。私はヴァイオリン奏者でしたが、オーディションなどでピアノの伴奏もしていました。そこで「伴奏のお礼に」と毎回おいしいケーキをくれていたのが、今の夫（大和田浩明：現パーソンル・マネージャー）です（笑）。夫が日本に戻る際に一緒に来日し、東京交響楽団に入団しました。

住めば住むほど

入団は11月。すぐに「第九文化」の洗礼を受けました。ヨーロッパは日本ほど頻繁に（第九）を演奏しないので、とても緊張したのを覚えています。今ほど便利な時代ではなかったので、買い物一つするのも一苦労。音楽以前に生活に慣れることが大変でしたが、楽員でドイツ語を話す人がとても多かったので、随分と助けてもらいました。オーケストラが無ければ、日本から逃げ出していたかもしれません。22時まで明るいイギリスや、ゴキブリがいらないドイツも好きですが、今となっては日本が一番居心地が良いです。定年を迎えたら、夫はヨーロッパで暮らしたいと考え

ていたようですが、私が「このまま日本にいたい!」と懇願したので、話し合いの結果日本に残ることになりました（笑）。

母国語は英語、職場は日本語、そして家ではドイツ語で生活をしています。日本語とドイツ語は今も勉強中。もともと語学を学ぶことが好きで、これまでにフランス語、イタリア語、スペイン語も勉強しました。言葉はどれだけ勉強しても終わりが無いので、まだまだ興味がありますし、今後も学びたいです。

母国イギリスの作曲家

今回の「スペシャル・イギリスプログラム」でも取り上げるエルガーは、大好きな作曲家の一人。学生時代から、オーケストラとしても沢山の曲を演奏しましたし、《ゲロンティアスの夢》では合唱にも取り組んだこともあります。今回のプログラムも思い出の曲ばかり。とても楽しみです。



エルガーの家を訪れて。

インタビュー：事務局

『ワーグナー：トリスタンとイゾルデ(演奏会形式)』特集①

東京交響楽団

《トリスタンとイゾルデ》に寄せて

岸 純信 (オペラ研究家)



ワーグナーの楽劇《トリスタンとイゾルデ》(初演:1865)の元のお話は、中世フランスの物語であり、その源はケルト人の伝承に遡るといふ。イゾルデ【Isolde】の名も元を辿ればイズー【Iseut】であり、ケルトの代表的な綴りに戻せば【Yseut】になる。

「Yの字が頭に来るのはケルトの証。メーテルランクの戯曲『ペレアスとメリザンド』(1893)が時代も場所も不鮮明な中、一点、子供イニョールド【Yniold】のスペリングから、作者がケルト民族を想定したと推測される」これは音楽学者スミスが紹介する解釈だが、この一文を目にして以来、筆者の脳内では、独語の楽劇と仏語の戯曲が強く響き合うようになった。事実、《トリスタン》も『ペレアス』も、年かさの夫が、若い妻と身近な青年(甥や異父弟)の不倫に苦しむ顛末を描くもの。2作は魂の深いところで繋がっている。

実は、この10月、指揮者ジョナサン・ノットが《トリスタンとイゾルデ》を振るにあたり、全曲を2回に分けて演奏すべく、初日のカップリングに選んだのが、シェーンベルクの交響詩《ペレアスとメリザンド》(1905)である。マエストロの心でこの二作が呼応したことは疑うべくもないが、シェーンベルクも、この交響詩でワーグナーへの憧憬の念を隠そうともしないから面白い。《トリスタン》の名場面(愛の死)に現れる特徴的な装飾音型が、《ペレアス》のそこかしこで鳴り響くとき、名作が名作に与える影響のほどに、客席の我々も深く感じ入ることだろう。

さて、その《トリスタン》だが、有名な前奏曲から上述の〈愛の死〉まで、ワーグナーが一貫して描く感情がある。それが、「もどかしさ」である。騎士トリスタンと王妃イゾルデの愛は尽き

せぬもの。何しろ、恍惚が絶頂に至ったかと思つた途端、次の音型がさらなる高みへと導くので、音による愛の交歓が果てしなく続くのだ。気づかず口にした媚薬のせいで、二人の情熱はとどまるところを知らずにいる。それだけに、ワーグナーが求める声の力も「人一倍の逞しさ」や「厚み」を備えたものになり、終わりのない愛の道行きが、歌のエネルギーでこれでもかと表現されるのである。

今回、ノットが主役に選んだのは、若々しい響きを誇る二人の名歌手たち。テノールのブライアン・レジスターの力強くも艶やかな高音域と、ソプラノのリサ・リンドストロームの明るく張りのある声音が、東京交響楽団の盤石の支えのもとで熱く絡み合う瞬間が、今から楽しみである。

◇公演情報◇

第一週 10/9(金) ミューザ川崎シンフォニーホール/ 18:30
10/11(日) サントリーホール/ 14:00

シェーンベルク:交響詩「ペレアスとメリザンド」

ワーグナー:楽劇「トリスタンとイゾルデ」
第1幕(演奏会形式)

第二週 10/15(木) ミューザ川崎シンフォニーホール/ 18:30
10/17(土) サントリーホール/ 14:00

ワーグナー:楽劇「トリスタンとイゾルデ」
第2幕、第3幕(演奏会形式)

指揮:ジョナサン・ノット

トリスタン:ブライアン・レジスター
イゾルデ:リサ・リンドストローム
ブランゲーネ:クラウディア・マーンケ
マルケ王:ミハイル・ペトレンコ
クルヴェナール:ダニエル・シュムッツハルト
水夫、メロート、牧童:アンジェロ・ボラック
舵手:高田智士 演出:彌勒忠史 合唱:新国立劇場合唱団

NEWS & TOPICS

楽 団 人 事

2020年3月3日付

新澤 義美 Yoshimi Niizawa
[ティンパニ&打楽器奏者]

1986年1月に入団し、35年にわたり活躍しました。

2020年3月3日付で定年を迎え、再雇用契約にて引き続きティンパニ&打楽器奏者として活動いたします。



新 入 団

2020年4月1日

溝根 慎吾 Shingo Mizone [ホルン奏者]

2020年4月1日

助川 龍 Ryu Sukegawa [客演首席コントラバス]

2020年4月13日

小川 博司 Hiroshi Ogawa [事務局 企画制作本部]

ニコニコ生放送で約20万人が視聴!

「ミューザ川崎シンフォニーホール&東京交響楽団 Live from Muza!」

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に係る政府の基本方針の決定等を受けて開催中止した、「3月8日(日)名曲全集 第155回」と「3月14日(土)モーツァルト・マチネ第40回」。

代わって「ニコニコ生放送」にて楽団史上初無観客ライブ無料配信を行いました。

初回の名曲全集ライブ放送終了時点では、なんと約10万人が視聴、二回目のモーツァルト・マチネでも、約8万人が視聴し、多くの反響が寄せられました。



演奏中にも声援コメントが飛んでくるのはニコニコ生放送ならではの。演奏が終わると画面上は「88888」(「バチバチ」、拍手の意)の文字で埋め尽くされました。



視聴者のコメントが画面上に流れる「ニコニコ生放送」。本番中の楽員もコメントに興味深々。



「ニコニコ生放送」技術スタッフがライブをサポート。



観客のいない演奏会本番中。息遣いから雑談まで、普段は聞こえない音もホールに響きます。

Live from Muza! CD発売決定!

東京交響楽団のライブCDを数多く手掛けている株式会社オクタヴィア・レコードが、「ミューザ川崎シンフォニーホール&東京交響楽団 Live from Muza!」2公演を録音・制作し、発売いたします!東響SHOPでも販売予定。是非お立ち寄りください。

■無観客ライブ無料配信「東京交響楽団 Live from Muza!」

1:名曲全集第155回

4月上旬より順次発送中

購入は
こちらから



指揮=大友直人

ピアノ=黒沼香恋

(ミューザ・ソリスト・オーディション2017合格者)

オルガン=大木麻理

(ミューザ川崎シンフォニーホールオルガニスト)

管弦楽=東京交響楽団

曲目:ドビュッシー:牧神の午後への前奏曲

ラヴェル:ピアノ協奏曲ト長調

サン=サーンス:交響曲第3番「オルガン付き」



2:モーツァルト・マチネ第40回

現在製作中

指揮=原田慶太楼

フルート:八木瑛子(首席フルート奏者)

ヴァイオリン:水谷晃(コンサートマスター)

ヴィオラ:武生直子(首席ヴィオラ奏者)

チェロ:伊藤文嗣(首席チェロ奏者)

管弦楽=東京交響楽団

曲目:モーツァルト:フルート四重奏曲 第3番

モーツァルト:交響曲 第35番「ハフナー」



最後はみんなで画面の向こうのお客様に手を振って挨拶。やり切ったような、すがすがしい笑顔です。

NEXT PROGRAM

5/30 (土) 第680回 定期演奏会

6:00p.m. サントリーホール

5/31 (日) 新潟定期演奏会 第115回 5:00p.m. “リゅーとぴあ”コンサートホールも同プログラムで開催

指揮: 下野竜也 ヴァイオリン: 南紫音

ボッケリーニ(ベリオ編曲): マドリードの夜の帰宮ラッパ

ベルク: ヴァイオリン協奏曲「ある天使の思い出に」

ベートーヴェン: 「フィデリオ」序曲

ベートーヴェン: 第1番、第2番、第3番

S¥7,000 A¥6,000 B¥5,000 C¥4,000 P¥2,500



下野竜也コメント

四半世紀前、当時、音楽監督の秋山和慶先生の練習を見学する為に、足繁く通った東京交響楽団練習場。古典から現代音楽まで広範なレパートリーをどんだん仕上げて行く先生の凄さと東響の凄まじい集中力にいつも圧倒されていました。しかし一旦休憩となると和気藹々としたアットホームな空気。片隅で見学していた東響の指揮台に立たせて頂く事は、緊張と共に喜びに満ち溢れています。

18年振りの定期演奏会。全てBで始まる綴りの作曲家の作品を並べました。ベートーヴェン不屈の精神の産物、序曲4曲を一編に。量的には、カツ丼4杯を連続で食べて頂く感覚ですが。ベートーヴェンの一度生まれた音楽(生命)を大切に大切に吟味した彼の足跡を感じて下さい。

ボッケリーニの作品は、あっけらかんとした曲想の中に巧みなベリオの技術が垣間見えます。カツを4段に重ねて提供している様な料理ですが、よく味わうと、量だけでなく繊細な味付けを堪能して頂けると思います。

ベルク。最愛の人がこの世を去ったと思ってその響きを浴びてみて下さい。話す事の出来ない外国語による映画を字幕無しで観ている様な感じで接してみてください。きっと何か皆さんの心に伝わると信じています。南紫音さんの素敵なヴァイオリンを私も楽しみにしています。

会場でお目に掛かりましょう。

東京交響楽団

川崎市フランチャイズオーケストラ
新潟市準フランチャイズオーケストラ
<提携>公益財団法人八王子市学園都市文化ふれあい財団



公式サイト

http://tokyosymphony.jp



1946年、第二次世界大戦によって中断された音楽文化の再建と、新しい舞台音楽の公演を目標に「東宝交響楽団」として創立。1951年に東京交響楽団に改称し、現在に至る。

現代音楽やオペラの初演に定評があり、これまでに文部大臣賞、京都音楽賞大賞、文化庁芸術作品賞、モービル音楽賞、サントリー音楽賞、川崎市文化賞など日本の主要な音楽賞の殆どを受賞。2020年3月第32回ミュージック・ペンクラブ音楽賞「オペラ・オーケストラ部門」「室内楽・合唱部門(東響コーラス)」をW受賞した。

2014年度シーズンより、ジョナサン・ノットが第3代音楽監督に就任。音楽監督と共に3年がかりで取り組んだ「モーツァルト 演奏会形式オペラシリーズ」や、ミュージザ川崎シンフォニーホール開館15周年記念公演「グレの歌」はいずれも高い評価を得た。2019年にはジョナサン・ノット指揮「マラー:交響曲第10番&ブルックナー:交響曲第9番」が第31回「ミュージック・ペンクラブ音楽賞優秀録音作品賞」を受賞。音楽誌「音楽の友」の「41人の音楽評論家・記者」が選ぶ「コンサート・ベストテン2019」にて、最多3公演が選出され注目を集めた。

ITへの取り組みも積極的で、「iVRオーケストラ」や「LINEチケット」の導入、日本のオーケストラとして初の音楽・動画配信サービス「TSO MUSIC&VIDEO SUBSCRIPTION」をスタートし注目を集める。また、録音や放送においても活発で、テレビ朝日「題名のない音楽会」レギュラー出演や、TOKYO SYMPHONYレーベル、N&Fレーベル、キングレコード、EXTONレーベル、日本コロムビア等からCDを多数リリースしている。

舞台芸術創造活動活性化事業として文化庁の助成を受け、サントリーホール、ミュージザ川崎シンフォニーホール、東京オペラシティアートホールで主催公演を行うほか、川崎市とフランチャイズ、新潟市と準フランチャイズ、(公財)八王子市学園都市文化ふれあい財団とパートナーシップ提携し、コンサートやアウトリーチなどを積極的に展開している。これら地域に密着した活動の一方で、海外においてもウエィン楽友協会での公演や日中平和友好条約締結40周年記念公演等58都市で78公演を行い、国際交流の実を挙げた。

また、新国立劇場では1997年の開館時からレギュラーオーケストラとして毎年オペラ・バレエ公演に出演。さらに、子どものための演奏会にもいち早く取り組んでおり、「10歳からのオーケストラ」【子ども定期演奏会(サントリーホールとの共催)】は多方面から注目されている。

東日本大震災を機に、2011年5月から楽団員によるチャリティコンサート「Concert For Smiles」を定期的開催。その募金は(公財)国際開発救援財団を通じて被災地に役立てられている。

Jonathan Nott began his tenure as the 3rd Music Director of the Tokyo Symphony Orchestra in 2014 season. In March 2020, Mo. Nott and the Orchestra won the Music Pen Club Japan Award for Opera & Orchestra category and Tokyo Symphony Chorus, Orchestra's amateur chorus also won the prize for Chamber & Chorus category.

Highlights of past seasons with Mo. Nott include Symphony 9 by Beethoven Gurre-Lieder by Schoenberg celebrating 15th Anniversary of Muza Kawasaki Symphony Hall, TSO's home and Mozart's Da Ponte Operas in concert style. In 2018, TSO launched "TSO Music & Video Subscription", first-ever digital project in Japanese Orchestras, which provides live-concert video and music as well as CD recording.

Outside of Japan, the orchestra has performed 78 concerts in 58 cities since 1976. In 2016, the Tokyo Symphony Orchestra celebrated its 70th anniversary and took a European tour including the concert at Musikverein Großer Saal in Vienna with Mo. Nott. In August 2018, in commemoration of the 40th anniversary of the Conclusion of the Treaty of Peace and Friendship between Japan and China, the Orchestra had concerts in Shanghai and Hangzhou and received high praise. The Tokyo Symphony Orchestra was founded in 1946 and has a reputation for giving first performances of a number of contemporary music and opera. Through these activities, the orchestra has received most of Japan's major music awards such as the Minister of Education Award, the Grand Prix of Kyoto Music Award, Mainichi Art Award, Agency for Cultural Affairs Art Award, Suntory Music Award and Kawasaki City Culture Award.

Since becoming the resident orchestra of the City of Kawasaki in 2004, a semi-resident orchestra agreement with the City of Niigata in 1999, and a partnership agreement with Hachioji College Community & Culture Fureai Foundation in 2013, the orchestra has been enthusiastic for school concerts and community concerts. The Tokyo Symphony Orchestra has been regularly performing various operas and ballets at the New National Opera Theatre, Tokyo since its opening in 1997.



マエストロ・シート

【5組10名の小・中・高校生無料ご招待】



音楽・動画配信サイト

「TSO MUSIC & VIDEO
SUBSCRIPTION」

1か月
500円
(税別)



このプログラムは見やすさ・読みやすさに配慮したユニバーサル・デザインフォントを使用しております。

Tokyo Symphony Orchestra Monthly Concert Broadcast
Symphony

Symphony 2020年(令和2年)4月号[非売品]

発行 公益財団法人東京交響楽団 〒169-0073 東京都新宿区百人町2-23-5 TEL 03-3362-6764
<川崎オフィス> 〒212-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町1310
ミュージザ川崎セントラルタワー5階 TEL 044-520-1518

Art Direction & Design : Be.To Bears 印刷 : NHKビジネスクリエイト